

1 自己評価

I 評価結果 【別紙参照】

II 分析・改善方策

今年度の学校経営目標は「学べ、進め、未来をつかめ！」をキーワードとし、「①学びに向かう力を持つ生徒の育成、②目標を持ち将来へ前向きに進む生徒の育成、③豊かな人間性を有する生徒の育成、④地域に愛着を持ち必要とされる生徒の育成」という4つの重点目標を設定した。また、「You Make Washu」を合い言葉に、生徒教職員一人一人が本校を作っていくという矜持を持って活動してきた。

学校自己評価アンケート結果を経年比較すると、生徒の肯定群の増加が顕著であった。例えば、「ICT機器等の充実」「先生が活動を『見える化』してくれる」「先生が授業を工夫してくれる」「先生は悩んだり困ったりした時相談に乗ってくれる」は10%前後数値が向上した。結果として、生徒の社会性やマナー意識の向上(+11.3%)、家庭学習時間の定着(+21%)、進路意識の向上(+6.3%)に反映されていると考えられる。また、学科改編に際し、「新しい学校づくり」を意識して、授業改善や課題研究、検定指導等を充実してきた成果が実を結びつつあると考えられる。今年度目標としていた「鷺羽高校に入って良かった」という学校満足度は、生徒、保護者ともに80%を越え、達成できた。

他方、「ボランティア等社会貢献活動」、「部活動や生徒会活動」等の活性化は、生徒、保護者、教職員とも数値が下降した。コロナ禍における地域連携体制や各種活動を、ICTも駆使して向上させたい。「地域が学校に関心を持ってきている」が毎年下降し続けている点は長年の課題である。次年度は、「生徒につけさせたい力」として「自律・挑戦・思いやり」をスクールポリシーとして明確にした。学校としての成果は、生徒の成長や納得感で表し得るものであり、それは生徒と教員の日々の信頼関係に基づく。来年度は、このスクールポリシーを念頭に各年次・分掌が具体的目標を立て、一連の取組を「You Make Washu Project」と称して一体感を醸成しつつ、その活動を積極的に内外に発信したい。

2 学校関係者評価委員名

眞次 浩司 (学校評議員)	岩崎 秀子 (学校評議員)	奥山 貴之 (学校評議員)
藤井 昭佐 (学校評議員)	山本 哲也 (PTA会長・学校評議員)	

3 学校関係者評価

① 学びに向かう力を持つ生徒の育成

上述の生徒項目の向上こそが本校の美質である「面倒見の良い学校」を物語っていると思う。進路実績も向上しており、教職員の尽力に感謝する。今後、ICT活用やオンライン授業の必要性は必ず高まる。1人1台端末の利活用については、教職員の更なる研究とスキル向上を望みたい。

② 目標を持ち将来へ前向きに進む生徒の育成

「You Make Washu」は「生徒が主役」のはずである。行事や校則の見直しにあたり、生徒の意見をしっかりと聞き入れてほしい。それが生徒の自己肯定感を高め、満足感や自信にも必ず繋がる。

③ 豊かな人間性を有する生徒の育成

総合的な探究の時間を通して、「コミュニケーション能力」を軸に年次進行で力をつける仕組みを構築しつつある。図書館の充実、ブログの充実といった精力的な取組も評価する。引き続き生徒の姿を内外に発信し、学校に対する愛着やプライドを生徒も教職員も持って取組んでほしい。

④ 地域に愛着を持ち必要とされる生徒の育成

自身が帰属する共同体への愛着を育み、「自分が誰かに貢献できる存在である」という実感を生徒に抱かせるには地域と連携した活動が不可欠である。コロナ禍ではあるが地域や事業所との関わりをより一層大切にし、生徒や保護者、地域の期待に応え続ける学校であってほしい。

4 来年度の重点目標

I よりよい社会の実現を目指して、自律し、挑戦し、思いやりのある生徒の育成

- 1 学びに向かう力を持つ生徒の育成 (自律)
- 2 目標を持ち将来へ前向きに進む生徒の育成 (挑戦)
- 3 豊かな人間性と地域への愛着を有し、社会に貢献できる生徒の育成 (思いやり)

II 開かれた学校、働きがいのある職場づくりの促進

- 1 コミュニティ・スクールによる校外の教育資源の活用
- 2 内外への積極的な情報発信
- 3 学校経営目標の共有と組織の活性化、教職員の健康維持